

安保法案の廃案を求める決議

現在参議院で審議中の『安全保障関連法案』(安保法案)に対し、8月30日、日本全国300カ所以上で市民が自発的に集結し、安保法案の廃案を訴えた。12万人もの市民が参加した国会前の熱をBBCは「日本の若者は目覚めた」と世界に伝えた。法案に反対する市民は今日も日本全国で声を挙げている。こうした市民の声は、紛れもない、民主主義の声である。

安保法案は、内容のみならず、憲法改正手続きによらずに政権が歴代内閣の憲法解釈を一方的に変更した点で、大多数の憲法学者等が憲法違反と断じている。我が国の将来に重要な影響を及ぼす法案だからこそ、憲法には忠実に、市民の声には耳を傾けることこそ、政府与党は行うべきである。ところが政権は、選挙で多数の議席を獲得したことを盾に、安保法案を成立させる構えを崩していない。しかし、選挙で争点としていなかった安保法案について、選挙結果だけをよりどころとして、憲法解釈を一方的に変更し、国会での議決を強行するのは、立憲主義の破壊であり、民主主義への敵対である。

私たち全国市民オンブズマン連絡会議は、民主主義のツールである情報公開制度を用い、行政を監視し、行政に意思を表明し、行政を少しずつ変えてきた。憲法と民主主義の力を信じ、民主主義の制度を用いてきたものとして、私たちは安保法案の採決に強く反対する。そして、安保法案に反対の声を挙げる全国の市民と連帯して、安保法案の廃案を求めることをここに決議する。

2015年9月6日

第22回全国市民オンブズマン兵庫大会